

# 令和7年第4回山田町議会定例会

## 一般質問通告の要旨

一般質問は、12月9日(火)に順位1～5を、10日(水)に順位6～10を行う予定です。

順位	質問者	質問事項	質問要旨
1	5番 昆 清	1 水産業について	主要魚種の水揚げ減少により、水産業界は厳しい状況である。特に、海水温の上昇と貝毒により、ホタテやカキ等の養殖に影響が見られ、生産者や加工業者も経営が厳しいと聞くが、当局は把握しているのか伺う。
		2 町内の小中学校の不登校について	令和7年10月30日の報道によると不登校の小中学生が、6年度は35万人以上に上り、過去最多となったことが29日の文部科学省の不登校調査で分かり、対策強化が求められるとのことであるが、当町の現状について伺う。
		3 若者の人口流出対策について	全国的に人口減少対策が話題になっているが、その一つとして、働き方や福利厚生など若者にとって魅力ある企業を積極的に誘致し、雇用を創出しながら、若者の流出を防ぐ環境の整備を進めていく必要があると考える。そこで、当局における今後の計画について伺う。

順位	質問者	質問事項	質問要旨
1	5番 昆 清	4 熊対策について	全国的に熊の被害が急増しており、特に岩手県、秋田県における人身被害が多く見られ、国会でも取り上げられている状況である。そこで、以下の3点について伺う。 (1) 今年度に捕獲した熊は何頭か。 (2) 町として、駆除活動に係る補助金等の予算はどれくらい計上しているのか。 (3) 町は、熊捕獲に対して1頭当たりどれくらいの報酬を支出しているのか。
		5 大雨被害について	令和7年11月1日未明の大雨について、私が織笠地区を確認したところ、数ヶ所の被害を確認し、この状況であればその他の町内各地でも同様の被害が発生したのではないかと思われる。そこで、当町における被害状況について伺う。
2	8番 佐々木 慶信	1 児童生徒の安心、安全の確保について	10月下旬には、熊の出没への対応策として町内の小中学校では保護者に対して登下校時の送迎をお願いしたようである。児童生徒が安心して学校生活を送れることが何よりも大切なことである。小学生の安心安全の確保、保護者の不安を解消するためにも現在徒歩で登下校している児童に対しての対策が急務と感じている。特に、登下校の安全確保、小学生の命を守るための熊対策は後追いの対応ではなく、熊が出る前にリスクを減らす先行的、総合的対策が必要と考える。 登下校の安全確保は自治体の責務であり、今まさに迅速な対応が求められていると考える。そこで伺う。 (1) 当町における今年度の熊の出没件数と過去3年間の状況はどうか。 (2) 学校・教育委員会には不安の声が寄せられているか。  (次のページへ)

順位	質問者	質問事項	質問要旨
2	8番 佐々木 慶信	<p>1 児童生徒の安心、安全の確保について (つづき)</p> <p>2 「子どもは地域で育てる」ための取組について</p>	<p>(3) 教育委員会は各小中学校に対して、どのようなマニュアルで対応しているのか。</p> <p>(4) 最も効果が高い対策はスクールバス等の交通手段で徒歩区間を減らすことである。現在山田小学校、豊間根小学校では徒歩で登下校している児童数はどのくらいか。その中で熊対策としてスクールバスの利用を希望する児童、保護者はどのくらいの数か。</p> <p>(5) 徒歩で登下校する児童でスクールバス利用希望者に対して、安全を確保するためにスクールバスを運行する考えはないか。</p> <p>(6) 児童の命を守る教育の一環として、登下校時の持ち物による対策も有効である。当町が町内全児童に熊鈴、ホイッスルを貸し出す計画はないか。</p> <p>2年続けて山田中学校の生徒が山田祭りに参加してくれた。各郷土芸能団体からも中学生の参加を肯定的に捉えるご意見を多くいただいた。山田中学校の生徒の祭り参加の効果は絶大だったと認識している。</p> <p>各郷土芸能団体は保育園から大人までの世代を越えたメンバーで構成されている。祭りはまさに理想的な世代間交流の場となっている。</p> <p>山田中学校の祭り参加によってできたこの関係性をステップにして、「地域とともにある学校」、「地域総がかりの教育」をさらに推進していかなければならない。</p> <p>小中学生、そして高校生がふるさと山田を愛し、ふるさと山田で暮らしていきたいと思うようなまちづくりが急務と考える。</p> <p>そこで伺う。</p> <p>(次のページへ)</p>

順位	質問者	質問事項	質問要旨
2	8番 佐々木 慶信	2 「子どもは地域で育てる」ための取組について (つづき)	<p>(1) 2年連続での山田中学校全校生徒の祭り参加をどのように評価しているか。</p> <p>(2) 「子どもは地域で育てる」ために、その先頭に立つのは教育委員会と考えるが、教育委員会の見解を伺う。</p> <p>(3) 長期的な視点で「子どもは地域で育てる」という観点から新たな取組が必要と思うが、いかがか。</p>
		3 教育委員会の見える化について	<p>小中学生の保護者はもちろん、町民総ぐるみで山田の子どもたちを育てていかなければならない。また、教育に関心を持っている町民は多いと感じている。教育に関する意見交換の場で、どうすれば町教委の見解等を入手することができるのか尋ねられ、返答に窮することがあった。</p> <p>公正・透明な教育行政を確保し、教育への信頼を築くためにも、子ども・保護者・地域が教育の現状を理解し、協力し合える関係をつくるためにも、そして説明責任と参加を両立させ、開かれた教育行政を推進するためにも教育委員会の見える化は必要と考える。そこで伺う。</p> <p>(1) 教育行政に対する住民からの信頼と、子どもたちの学びへの理解を深めるためにも、「教育委員会議」や「教育施策」等の情報を、ホームページ上等で誰もが閲覧できるようにしてほしいと思うが、教育委員会の見解を伺う。</p> <p>(2) 今後、教育委員会独自のホームページを開設する計画があるのか伺う。</p>

順位	質問者	質問事項	質問要旨
2	8番 佐々木 慶信	4 不登校児童生徒への支援充実について	<p>文部科学省の調査によると、令和6年度の不登校児童生徒は全国で約35万と過去最多を更新した。本町でも不登校の児童生徒は年々増加傾向にあり、学校・家庭・地域が連携して支援していく体制の強化が求められている。「誰一人取り残さない教育」の実現に向けて、学びの多様化や相談支援の充実を図る必要があると考える。そこで伺う。</p> <p>(1) 当町の小中学校における不登校児童生徒の現状と、過去数年間の推移をどのように把握しているか。</p> <p>(2) その主な要因についてどのように分析しているか。</p> <p>(3) 当町として、地域・民間団体と連携した居場所・学び場づくりはどのようになっているか。</p> <p>(4) 国が進める「COCOLOプラン」に基づき、町としてどのような方針・目標を掲げているか。</p> <p>(5) 令和8年度以降の施策として、人材確保(SSW・支援員等)や予算措置をどのように考えているか。</p>
3	4番 中屋 佳信	1 熊被害の防止対策について	<p>全国的に熊による人身被害等が相次いでいる。本町でも中央町や駅前付近まで熊が出没し、町民の日常生活が脅かされていることから、熊被害防止対策について町の対応を伺う。</p> <p>(1) 熊の出没件数、捕獲処分件数、人身的被害、農作物被害など、過去3年間の状況について伺う。</p> <p>(2) 熊が市街地に出没した際に、自治体判断で発砲を可能とした緊急銃猟が可能となったが、国が推奨する対応マニュアルの作成及び猟友会や警察等との態勢構築など、町の緊急銃猟実施についての対応状況を伺う。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ)</p>

順位	質問者	質問事項	質問要旨
3	4番 中屋 佳信	1 熊被害の防止対策について (つづき)	<p>(3) 熊の出没に対して、熊から子どもたちの命を守る対策が重要であるが、学校生活や登下校の安全確保、子どもたちへの指導などについて対応状況を伺う。</p> <p>(4) 熊駆除を行う猟友会メンバーの高齢化やハンター不足が深刻なことから、国ではガバメントハンターの雇用や早期育成について、対応する自治体への予算措置を検討しているようである。本町でも同様の対応が必要と思うが、専門職員の雇用や担当部署の増員、職員の狩猟免許取得や育成などについて町の見解を伺う。</p>
		2 宮古港クルーズ船寄港に係る乗客誘致の取組について	<p>宮古港利用促進協議会は、宮古港へのクルーズ船寄港誘致に積極的に取り組んでおり、今年度は過去最高の16隻が寄港し、歓迎行事での郷土芸能披露や乗客との交流事業をはじめ、物産販売の開催や寄港地観光ツアーなど、地元経済への波及効果も大きく、各方面で様々な成果をあげている。</p> <p>本町もこの協議会に参画しているようであるが、ツアーや商店街への立ち寄りを見かけることもないことから、クルーズ船乗客を本町に誘致する取組について町の見解を伺う。</p> <p>(1) クルーズ船寄港による物産販売や歓迎行事には、本町からも出店や郷土芸能団体の参加があるようだが、その状況及び成果について伺う。</p> <p>(2) 宮古港へのクルーズ船寄港を絶好の機会として捉え、本町へ乗客を誘致するツアーやイベントなどのプログラムを研究・開発し、担当旅行代理店にセールスするなど、交流人口拡大への取組を行うべきと考えるが、町の見解を伺う。</p>

順位	質問者	質問事項	質問要旨
3	4番 中屋 佳信	3 オランダ島 観光の誘客力 向上に係る取 組について	<p>オランダ島は本町の観光資源の象徴であり、町の総合計画においても海水浴場としてだけでなく、マリンレジャーやマリンツーリズム等の拠点として、無人島キャンプなどの体験プログラムの提供に努めているが、未だに実効性のあるものは示されていない状況である。</p> <p>オランダ島の運営は、東日本大震災以降衰退していると感じているが、新たな観点から運営方法の見直しや、体験型観光コンテンツの開発など、観光庁の地域観光魅力向上事業などを活用してオランダ島観光の誘客力を高める取組を検討すべきと考えるが町の見解を伺う。</p>
4	7番 山崎 忠弘	1 伐期を過ぎ た森林整備に ついて	<p>町内の多くの人工林が利用期を迎え、適切な管理がなされない場合、土砂災害のリスク増加や水源涵養機能の低下など、森林の持つ多面的な機能が損なわれることが懸念されている。そこで、伐期を迎えた、あるいは過ぎた森林整備の現状と課題、そしてそれへの対策について伺う。</p>
		2 財政状況の 見通しと事務 事業の見直し について	<p>第10次総合計画策定にあたり、人口減少の中での財政状況の見通しを伺う。また限られた財源の中で、新たな事業を計画するためには、事務事業の見直しが必要と考えるが、どのように進めているか伺う。</p>
		3 雇用の場の 確保について	<p>当町にとって最重要課題の一つが、「雇用の場の確保」である。特に若者やファミリー層が町に定住・流入するためには、多様な業種での安定した雇用機会が不可欠である。</p> <p>そこで、「雇用の場の確保」を、どのように進めていく考えか伺う。</p>
5	13番 山崎 泰昌	1 第10次山 田町総合計画 (素案)につ いて	<p>人口減少により税収減や利用者の減が見込まれる中、今後の施策の方向性が示されたが、当局の考えを改めて質問する。 (次のページへ)</p>

順位	質問者	質問事項	質問要旨
5	13番 山崎 泰昌	1 第10次山田町総合計画（素案）について （つづき）	<p>(1) 地域インフラ、サービスの維持において従来の規模や方式では運営が難しくなり、方法や体制を見直すことが見込まれるとあるが、具体例と対応策は。</p> <p>(2) 地域経済と担い手の減少は大きな問題となって久しいが、第一次産業においては特に顕著である。第9次総合計画でも同様であったのに、今回も問題提起として盛り込まれているように受け取れる。具体的な施策はあるのか。</p> <p>(3) 観光事業において船越半島の施設の整備を計画的に進めるとあるが、漁港以外に他の案件があるのか。また、以前より計画を進めていた荒神海水浴場への道路整備は含まれるのか。</p>
		2 水産行政について	<p>(1) 組合員の年間漁業生産額を300万円としていたが、今後もこの目標で推移していくのか。また、実情は予定をクリアしているとは考えづらく、今後の対応策を検討することだったが、新たな施策はあるのか。</p> <p>(2) 国、県では漁業者の所得向上のため、「海業」を推奨している。「カキ祭り」等の実績は理解しているが、日常的に継続する事業が見当たらない。所得向上には不可欠なことだと考えるが、当局の見解は。また、そのような施策の検討は。</p>
		3 教育行政について	<p>(1) 仮称（しいれば）を令和8年第1回定例会に上程することのだが、提示されていた対象となる小学生6人、中学生12人の通級予定は。</p> <p>(2) 通級手段は、保護者への負担が大きいと考えられるが、議会より提案した送迎方法は取り入れられるのか。また、どのような手段をとるのか。</p> <p style="text-align: right;">（次のページへ）</p>

順位	質問者	質問事項	質問要旨
5	13番 山崎 泰昌	3 教育行政について (つづき)	(3) 再び学校に戻ることを前提として行う事業だが、当局ではどのくらいの期間を考えているのか。また、卒業までをも想定しているのか。 (4) 熊による通学への影響が懸念される。スクールガードの方々の活動は心強いことだが、他の対策も必要なのではないか。
6	6番 豊間根 信	1 災害公営住宅について	前回の定例会において、町としては災害公営住宅及び町営住宅入居者のうち、単身高齢世帯に対しては、町営住宅管理センターによる定期的な巡回訪問を実施するとともに、必要に応じて関係課に情報提供を行っているとの回答を得たが、これを受けて、次の2点について伺う。 (1) 1年あたりの訪問回数及び内容について伺う。 (2) 福祉担当や社会福祉協議会との連携がとれているのか伺う。
		2 熊の出没による情報提供体制について	近隣市町村どこも熊の出没で大変な状況であるが、注意喚起などの情報提供体制はどのようになっているのか伺う。
		3 テレビ共同受信組合の現状について	テレビ難視聴地域対策として各地域において共同受信組合方式で地域の難視聴解消に努力してこられたが、その間にサテライト中継局などの整備もあり状況も変化してきた。そこで、次の2点について伺う。 (1) 町全体の組合数を当局は把握しているのか伺う。 (2) 老朽化した設備の解体について町で助成する考えはないか伺う。

順位	質問者	質問事項	質問要旨
7	1 番 木村 洋子	1 国民健康保険の子どもの均等割の免除について	子どもが生まれると税負担が増える。子育て支援に逆行するとも言える制度が国民健康保険の子ども均等割負担である。各地で均等割減免の取組が広がっている。宮古市では令和2年度より18歳以下の子どもの均等割を全額免除している。当町においても子育て世代をしっかりと応援する立場から、子どもの均等割をなくして子育てしやすい町をつくっていくべきではないか。
		2 熊対策について	全国的に熊の被害が多発している。特に東北地方においては、災害級とも言われている。当町における熊の被害状況と対応はどのようにされているかを問う。 (1) 熊の個体数の管理は必要なことだとは感じるが、同時に、熊が出没しないような環境づくり（ゾーニング）が重要と考える。特に人口減となっている地域では、放置された栗や柿の実の付いた木が手つかずになっていたりヤブ化も進んでいる。ここで、森林環境譲与税等を活用し、熊の餌になる不用な木の伐採やヤブ化等を解消し、熊を寄せ付けない環境づくりを進めていくべきではないか。 (2) 豊間根小学校周辺では、毎年のように熊の目撃情報がある。栗林や野菜畑が隣接している場所でもあり、学校に熊が侵入しないように校庭の山側に電気柵等を設置し、児童の安全を守っていく必要があると考える。その他にも児童を熊被害から守っていく方策を町ではどのように考えているのかを問う。
		3 災害公営住宅の空室について	(1) 老朽化した町営住宅から災害公営住宅への転居は進んでいるかどうか。それに伴い、空室は解消されてきているかどうか。  (次のページへ)

順位	質問者	質問事項	質問要旨
7	1 番 木村 洋子	3 災害公営住宅の空室について (つづき)	(2) 災害公営住宅の住民より、集会所がないため空室を集会所として使用させてほしいとの要望が以前よりあったが、どのように対応しているか。住民の高齢化は顕著であり、コミュニティ維持のためにも、集会所が必要であると感じる。空室の集会所利用を許可すべきではないか。町の考えを伺う。
		4 心のケアについて	被災者の心のケアに対する支援は今後どのように進めていくのか。来年で震災より 15 年となるが、被災された方々の深い心の傷は癒されていない状況がある。被災した自治体はこれからも心のケアへの支援を継続していただき、被災者が心穏やかに安心して暮らせるように心がけてほしいと考える。町の考えを伺う。
8	9 番 関 清貴	1 本町の熊対策について	(1) 町内に熊が出没した時の住民への情報提供や駆除体制はどのようになっているのか。また、現状での課題があれば具体的に伺う。 (2) 町は熊駆除への報酬として 1 頭当たりいくら支出しているのか。また、今後報酬を増額する考えはあるのか。 (3) 熊が出没した際の小中学生の安全確保、送迎対応等は関係者間で共有されているか。
		2 住民の居場所づくりについて	旧さくら幼稚園が子ども、高齢者の交流の場に利用されているようである。子どもと高齢者の居場所づくりは本町の政策課題であろうかと思う。町の今後の取組について伺う。
		3 町内小中学生の不登校の現状と課題について	(1) 全国で病気や経済的理由以外で年間 30 日以上欠席した小中学生は 35 万 3,970 人で過去最大と文部科学省が公表したが、当町の現状はどうか伺う。 (次のページへ)

順位	質問者	質問事項	質問要旨
8	9番 関 清貴	3 町内小中学生の不登校の現状と課題について (つづき)	(2) 旧船越小学校を活用した教育支援センターが来年4月から本格運用される。不登校で困っている小中学生や保護者の方々が希望を持てるように活用してもらいたいが、現在の運営体制について課題があるか伺う。
		4 集会施設の移設について	山の内生活改善センターについて建設されてから何年が経過したか伺う。その間、地域から移設に対する要望事項があったか。施設を利用する方々の活動内容は介護予防、趣味サークル、読み聞かせ等多岐にわたっていると思うが、東日本大震災を経て集落の環境も変化していることから、移設は考えられないか伺う。
9	2番 菊地 光明	1 町道名について	このことについても度々質問しているが、どのような基準で作成しているのか詳しく述べよ。町内全ての町道を調査して実情に合った名前に変更すべきと考える。例えば、三浦医院前線や大沢小学校線など、若い職員と住民は分からないと思うし、由来となった建物が現在はない状態である。来年度になると交付金の申請などで今の町道名が使用されることとなる。直すなら今が好機と考えるが、考えを詳しく述べよ。
		2 事業振興について	(1) 町道前須賀・タブの木荘線のうち、通称どどっばについて、前面の防潮堤工事も終了したので、関係機関と協議の上、急カーブを緩やかなカーブへ直す計画はないのか。詳しく述べよ。 (2) 田の浜地区の低地部が現状のままのうちに町道前須賀・タブの木荘線の拡幅工事をしておくべきと考えるが、当局の考えを伺う。  (次のページへ)

順位	質問者	質問事項	質問要旨
9	2番 菊地 光明	2 事業振興について (つづき)	(3) 公共施設の長寿命化が騒がれてから3年以上が過ぎたが、そろそろ結論を出す時期にきているようだと思う。現在長寿命化を考えている施設はどれで、解体を考えている施設はどれか。また、解体を考えている公共施設のうち、避難所に指定されている施設はどれか。その場合新たな避難所はどうするのか。詳しく説明せよ。
		3 農業について	(1) 政府は減反政策を見直して減産するようだが、その影響はないのか。今後の方針についても詳しく述べよ。 (2) 前回の質問でも聞いたが浜川目地区の農地について、現状のまま遊休農地にしておくのか。そのまま鹿や動物の遊び場にしておくのか。詳しく述べよ。 (3) 田名部地区の圃場整備事業が発表されてから30年くらい経つが、一向に何もされない状態である。これまでの経緯と今後の方針について詳しく述べよ。 (4) 前須賀地区と浦の浜地区の防潮林の松の木について、東日本大震災から約15年、植栽してから約10年が経過して、現在は枝払いや間伐の時期にあると思うが、関係者との協議の上、実施を要望してはどうか。これまでの経緯と今後の方針について詳しく説明せよ。
10	12番 横田 龍寿	1 下水道使用料の在り方と将来に向けた持続可能な事業運営について	下水道事業は、住民生活を支える極めて重要なインフラである。町長が住民負担に配慮し、使用料改定に慎重な姿勢を取っていることは理解できるものであり、その姿勢を尊重する立場である。 しかしながら、施設の老朽化や人口減少が進む中、現行使用料で将来必要となる更新費用を十分に確保できるのかについては、慎重かつ冷静に検討していく必要があると考える。  (次のページへ)

順位	質問者	質問事項	質問要旨
10	12番 横田 龍寿	<p>1 下水道使用料の在り方と将来に向けた持続可能な事業運営について (つづき)</p>	<p>今後も住民サービスを安定的に維持するためには、必要な見直しを行うことも、選択肢の1つであると考えている。以上の観点から、次の事項について町の見解を求める。</p> <p>(1) 一般会計からの繰入れについて 下水道事業会計の令和6年度決算において経費回収率が48.81パーセントとなっており、補填財源として一般会計から繰入れをしているようだが、このことについて、どのように考えているのか伺う。</p> <p>(2) 経営健全化、自立性の向上について 一般的に多額になる下水道施設の更新に係る将来負担や町の財政負担を踏まえた場合、経営健全化を図り、自立性を高めることが必要であると考えているが、このことについて使用料改定も含めどのように考えているのか伺う。</p>
		<p>2 「インフォやまだ」の情報配信の多様化について</p>	<p>本町では、町民への迅速な情報提供の手段として「インフォやまだ」アプリやメール等に配信をしている。</p> <p>しかし、近年はLINE等のSNSを利用する町民も多く、自分の普段使いのSNS、アプリ以外は読まない場合があるとの声が寄せられている。</p> <p>については、町民への情報提供の利便性を向上させより多くの町民に情報が届くよう、メール以外の配信の可能性について、インフォやまだ上でLINE等に情報を配信する仕組みにすることは可能であるか伺う。</p>

順位	質問者	質問事項	質問要旨
10	12番 横田 龍寿	3 带状疱疹ワクチン接種費用の補助対象年齢の拡大について	<p>令和7年第2回定例会で、対象年齢を50歳以上に引き下げるについて質問したところ、町側の答弁は「65歳以上の全年齢を対象に実施する方針」とのことであった。しかし、50歳代の発症リスクや重症化の可能性を考えると、補助対象を65歳以上に限定することにより、予防の機会が減少する懸念がある。</p> <p>そこで以下の点について伺う。</p> <p>(1) 現時点での実施結果について 令和7年度における65歳以上対象の補助実施件数、接種率について伺う。</p> <p>(2) 50歳以上への補助対象拡大の必要性について 50歳代における带状疱疹の発症状況や重症化リスク、医療費削減効果などを踏まえ、対象年齢引き下げの必要性について町の考えを伺う。</p> <p>(3) 補助対象の拡大について 令和8年度から50歳以上へ補助対象を拡大してはどうか、再度伺う。</p> <p>(4) 対象年齢拡大に係る課題について 接種対象年齢を拡大するにあたり課題となっていることはあるか。ある場合は、具体的に示せ。</p>

順位	質問者	質問事項	質問要旨
10	12番 横田 龍寿	4 森林環境譲与税の活用と木育推進策について	<p>森林環境譲与税は、森林整備・人材育成・普及啓発など幅広い目的に活用できる財源であり、本町でも毎年度一定額が交付されている。</p> <p>現在、町として間伐促進や管理体制整備に取り組んでいると承知しているが、森林資源の活用や木材の普及啓発（いわゆる「木育」）に一層取り組むことは、森林環境譲与税の趣旨にも合致し、地域産木材への理解促進にも資するものと考え。特に、婚姻届提出時に木製食器セットを贈呈する取組や、1歳児を対象に木製の知育玩具を贈呈する施策は、森林に親しむ機会の創出や、町の子育て支援の強化にもつながると考える。</p> <p>については、森林環境譲与税の今年度の決算見込みを確認するとともに、木育推進の新たな取組について以下の点を伺う。</p> <p>(1) 森林環境譲与税の今年度決算見込みについて</p> <p>今年度の森林環境譲与税の収入額および執行状況、決算見込みについて伺う。</p> <p>(2) 森林環境譲与税の活用方針について</p> <p>本町として、譲与税をどの分野に重点配分しているのか、現行の活用方針について伺う。</p> <p>(3) 婚姻届提出時に木製食器を贈呈する施策について</p> <p>木材利用促進と木育推進の観点から、婚姻届提出カップルに木製食器セットを贈呈する取組の実施可能性について伺う。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ)</p>

順位	質問者	質問事項	質問要旨
10	12番 横田 龍寿	4 森林環境譲与税の活用と木育推進策について (つづき)	(4) 1歳児への木製知育玩具の贈呈について 子育て支援と木育推進の両面から、1歳到達時の児童に木製の知育玩具を贈呈する施策の導入について伺う。 (5) これら木育施策に森林環境譲与税を活用する可能性について 地域産木材活用や普及啓発を目的とした事業として、森林環境譲与税を充当することが可能か伺う。
		5 山田中学校におけるフッ化物洗口の実施状況について	令和6年第2回定例会において、同僚議員より小中学校へのフッ化物洗口導入について提案がなされ、小学校については令和6年度計画、山田中学校においては検討する旨の答弁があった。フッ化物洗口はむし歯予防に有効とされ、児童・生徒の健康増進に資するものである。 については、今年度の山田中学校におけるフッ化物洗口の実施の有無、実施していない場合は今後の見通しについて伺う。